

平成 30 年度（2018 年度）

第 58 回大会

男子優勝：札幌藻岩 女子優勝：札幌啓成

【全道大会寸評】

第 58 回となる北海道高等学校テニス選手権大会は、6 月 12 日から 15 日の 4 日間の予定で、札幌市平岸庭球場で開催されました。会場は今年 4 月にオープンしたばかりで、テニスの全米オープンが行われる会場のコートと同じデコターフという素材のハードコート 20 面を使用して行われました。

しかし、ハードコートの一歩の弱点である雨天に悩まされ、公式練習・開会式の中止・順延、大会の順延のため、日程を一日延長しての大会となりましたが、選手は最後まで力を振り絞ってプレーしていました。

今大会を通して、当番校の札幌藻岩高校の教職員や生徒のみなさんをはじめ、多くの方々のご尽力のおかげで、無事大会を終えることができましたことを、心から感謝申し上げます。

男子団体戦は上位 4 校の力が均衡し、熱戦が繰り広げられましたが、第 2 シードの札幌藻岩高校が熱戦をものにして 2 年ぶり 30 度目の優勝を飾りました。女子団体戦は札幌支部大会から継続して力を発揮した第 1 シードの札幌啓成高校が悲願の初優勝を遂げました。ここ数年は札幌勢の活躍が目立っていますが、各支部においても着実に力をつけている高校・選手もいますので、来年以降もその力が発揮できることを期待したいと思います。

男子ダブルスは第 1 シードの板本・仲川組（札幌西高）がノーシードの三浦・奈良組（札幌西高）に勝利し優勝に輝きましたが、札幌支部からは一校 2 本しか出場できないという参加環境の中で、決勝が同行対決となったことは伝統校である札幌西高校の層の厚さを知らしめる極めて輝かしい快挙となりました。女子ダブルスは第 2 シードの照井・金内組（札幌啓成）が優勝し、見事に 2 連覇を果たしました。

男子シングルスは第 2 シードの鎌田大夢（札幌藻岩）が団体戦の勢いそのままの力を発揮して初戦から安定した試合運びを続け初優勝に輝きました。女子シングルスでは昨年優勝の沖田優羽（札幌藻岩）が、3 連覇が掛かる重圧の中で第 2 シードで試合に臨み、準々決勝からは相手に複数のマッチポイント与えた中でも粘り強いプレーに徹し、激戦の連続を制し、見事に女子においては 22 年ぶり 2 人目の 3 連覇を果たしました。

今大会は、団体戦と個人戦を合わせて男女ともに 4 校が全国大会の切符を手に入れました。

三重県四日市市での全国高校総体は、季候的にも非常に熱い戦いとなることが予想されますが、上記各選手の全国高校総体での活躍を期待します。

【全国大会】

2018 東海総体。テニス競技は8月1日から8日までの8日間、三重県四日市市の四日市ドーム・霞ヶ浦テニスコート・三滝テニスコートを会場に開催されました。男子の会場となった霞ヶ浦テニスコートは、今年5月にオープンしたばかりのデコターフ16面（メイン・サブを含む）。内8面は屋根付きで、また各コートに観客席があるという、選手はもちろん応援・観戦にも配慮した施設となっていました。一方女子のメイン会場となった四日市ドームは、空調の効いた屋内砂入り人工芝12面。連日30度後半の気温、コート上は40度以上となり、猛暑・熱中症対策、選手の体調管理に気を配らなければならない気象条件の中、申し分のない施設設備が用意され大会が開催されました。

団体戦は男女共2回戦からの登場。男子代表札幌藻岩の初戦は、接戦を制して1回戦を勝ち上がってきた宮崎県代表佐土原。ダブルス西垣・石川ペアは、惜しくもタイブレーク（2-7）で落としましたが、シングルスはNo.1 鎌田が8-3、No.2 大久保が8-1で取り、トータル2-1で2回戦突破しました。続く3回戦は、準地元の強豪校名古屋（愛知）。初戦と同オーダーで挑んだ藻岩でしたが、強気の攻めに押される場面が多く、また要所のショットに精度の差が出て、ダブルス2-8、No.1 シングルス2-8のトータル0-2で敗退となりました。

女子代表札幌啓成の初戦は奈良県代表登美ヶ丘。松山・濱野ペアは接戦となりましたが、思い切りの良いショットで流れを引き寄せ、8-5で勝利。シングルスは、No.1 照井が大会の雰囲気をつかむかのように慎重かつ大胆な攻めを見せ8-4、No.2 金内もチームの勢いに乗り8-3、トータル3-0で3回戦進出を果たしました。続く相手は激戦区関東代表白鵬女子。No.1 シングルス照井は、白鵬のエースと互角の戦いを繰り広げていましたが、松山・濱野ペアは1-8と力負け、No.2 シングルス金内も持ち前のパワーが通じず2-8と敗退が決定しました（No.1 シングルスは6-6打ち切り）。団体戦は、男女共3回戦に進みベスト16。両校とも個人戦に弾みの付く頑張りを見せてくれたと思います。

個人戦は、男女共にシングルス4名、ダブルス2ペアが出場しました。男子シングルスでは、三上（北海）が早稲田佐賀に8-5で1回戦を勝利。続く2回戦は東山（京都）に粘り強い戦いを見せていましたが、要所を精度の高いショットで決められ2-8で敗戦となりました。

男子ダブルスは、札幌西の2ペアが出場。板本・仲川ペアの1回戦は共愛学園（群馬）。双方試合の流れを掴みきれない展開でしたが、追いつがる相手を何とか突き放し8-4で勝ち上がりました。続く2回戦の名経大市邨（愛知）戦は、暑さの影響もあったか力出せず、2-8で敗戦となりました。

女子シングルスでは、照井（札幌啓成）がベスト8（北海道勢では10年ぶり）に入る大活躍を見せてくれました。全国選抜個人戦の覇者、第1シード吉岡（四日市商）との3回戦を、チャンス逃さない積極的な攻めを見せ8-5で勝利。勢いに乗り8入りを賭けた4回戦は、岡山学芸館戦。一進一退の攻防でタイブレークとなりましたが、ここに来てショットの正確性で勝り7-1で振り切る事に成功。しかし、翌日となったベスト4賭けの新田（愛媛）戦は、前日までのショットの精度が出ず、相手の出来の良さもあり0-2（4-6・4-6）でストレート負け。緊迫したラリーの応酬が多く、紙一重の差で勝敗を分けた試合でした。

女子ダブルスは、照井・金内ペア（札幌啓成）が3回戦まで進み、第1シードに4－8と惜敗。ベスト16。坂尻・菊地ペア（札幌光星）は、1回戦で地元四日市商と対戦。粘り強く拾うも決定力の差が出て4－8で敗退しました。

今大会の北海道代表には1・2年生が多く出場していました。貴重な経験になったはずですが、今後の大会での活躍を期待しています。

優勝のよろこび

札幌藻岩高等学校 主将 大久保 辰哉

僕たち藻岩高校男子テニス部は札幌市で6月13日から4日間にわたって行われた第58回北海道高等学校テニス選手権大会に出場し団体で見事優勝を果たしました。

僕たちは札幌支部予選では、決勝で負けてしまいとても悔しい思いをしました。それから全道までの2週間、どうすればリベンジできるかをチームで考え、そしてレギュラー一人一人の弱点を克服していけるように練習しました。それだけではなく、朝早く起きて学校に行き練習したり、放課後の練習ではチームで気合を入れ士気を高めることによって練習の質や雰囲気、チーム力を良くしていきました。優勝が決まった瞬間には、今まで三年間努力して来たことが胸に込み上げ、皆コート上で言葉では表現できないほどの喜びを分かち合い、抱き合い、思わず涙がこぼれました。どの高校より「絶対優勝するんだ。」という強い気持ちで戦ったのが大きな勝因だと思います。

僕たちが勝てたのはいつも僕達のために指導して下さる千葉先生、OBの方々、家族、そしてチームメイトの支えがあったからこそです。そういった方々、そして北海道代表としての誇りを胸に、インターハイで勝てるように頑張っていきます。また、1, 2年生にはインターハイでの経験を活かし、さらに強いチームを築き、連覇してほしいです。

優勝のよろこび

札幌啓成高等学校 主将 金内 葵春

私たち札幌啓成高等学校女子テニス部は現在総勢21名で活動しています。出場登録メンバーは5人ですが、残りの16人と一丸となり札幌支部大会、北海道予選会を勝ち抜いてきました。

昨年度の北海道地区予選会では個人では出場権を得たものの、団体ではもう一步のところまで敗れとても悔しい思いをしました。その気持ちを胸に、個人のスキルアップやチームとしての団結力を高めてきました。北海道は他の地域に比べて気候にハンデがありますが、私たちは冬の間もインターハイ団体勝利にこだわり、トレーニングや体育館での練習に励んできました。また幸いにも今年3月の全国選抜テニス大会にも出場する機会を得ることができ、モチベーションを保ち続けられたのも今回の要因の一つであると思います。

北海道は今までいわゆる伝統校のみがインターハイに出場していましたが、ここ3年はそれぞれ違う高校が代表になってます。私は3年生でこの大会で引退しますが、後輩たちには是非とも2連覇、3連覇と札幌啓成高校の伝統を繋げて欲しいと思います。

私自身、主将として大変なこともたくさんありましたが、今主将としてインターハイに出場できることを誇りに思います。そして、今まで支えてくださった顧問の先生や関わってくれた多くの方たちへの感謝の気持ちを忘れずに、北の大地の代表として、全国でも精一杯戦い、一つでも多くの勝利を掴み取ります。

全国高校総体（第 108 回全国高等学校テニス選手権大会）三重県四日市市
（2018 彩る感動 東海総体）

8月1日～8日

四日市ドーム

霞ヶ浦テニスコート

三滝テニスコート

男子 個人戦シングルス 優勝 : 白石 光（千葉：秀明八千代）

女子 個人戦シングルス 優勝 : 阿部 宏美（愛知：愛知啓成）